



食育 今回のテーマは「朝食をしっかりと食べよう」



2013年の白亜祭(学園祭)で大賞を受賞した野外研究部

キャンパスに入っても驚くのは、すれ違うたび、必ずどの生徒からも「こんにちは」とあいさつをされることだ。それも明るく、人への素直な興味が顔をのぞかせる。礼儀正しさの中にも伸び伸びとした雰囲気、広く、よく日の差し込む校舎と溶け合っている心地よい。驚きはあつという間に親しみに変わった。

何もう休みに限ったことではない。毎日2クラスが交代で行う食育においても彼女たちへの印象は強まるばかりだ。管理栄養士の指導の下行われる給食を取りながらの学習では、食材、伝統、マナーなどさまざまな食の知識を、五感で味わい目いっぱい取り込んでいく。とにかく好奇心旺盛で積極的なのだ。

共立女子第二ではこうした体験型の学習は多岐に渡るが、根底には「本物を伝えたい」との思いがある。「心で感じたことは一生残りますから、その蓄積が自分をどう育てるかに活きてくる」と小弥校長は言う。芸術鑑賞会を毎年定期的に企画し、今年の5月にはウイン少年合唱団の特別公演も開かれた。他にも職場体験、天文教室など、大学のその先、人生を射程に入れた観点からの取り組みを行っている。

特筆すべきは自然環境を最大限活かした学習だ。キャンパス内に農園「ラティファーム」を持ち、そこで生徒が苗付け



書写(書道)の授業では、中学2年生は全員、全211字におよぶ掛軸「漁父辞」の作成に取り組む



今日の“面白い”は
これからの“強い”

自然に恵まれた伝統校の示す新たな「女子教育」



ゴルフ部は週1回プロコーチからの指導を受け、全国大会にも出場する強豪



小弥芳紀校長



から収穫まで作物に関わる。立派に育てるためには小さな世話はもちろん、不要な苗を選別し取り除かなければならない。また、ここで収穫された野菜は調理実習や先述の食育で使われ、生ごみはコンポストで堆肥化し、農園で再利用される。こうした取捨選択や自然循環を肌で知ること、実感が生まれてくる。もちろん理科の授業においても恩恵は大きい。加えて実験実習棟には理科3科目の実験室を完備しており、研究環境も充実している。近年、理系大学や農業大学といった新たな進路が増えているのは、こうした土壌が背景にある。

制度もそれを後押しする。併設校特別推薦制度は共立大・共立短大の推薦合格後も外部大学を受験することができるため、生徒たちは安心してチャレンジができるのだ。こうした取り組みが実を結び、昨年度は国公立・早慶上理・MARCHといった上位大学合格者が格段に上昇した。もちろん教員のきめ細やかな個別指導と、生徒一人ひとりの不断の努力がそこにはある。それでいて伸びやかさを失わないのがこの学校の魅力であり、ここ一番の強みにもなっている。

「ものを作り上げる」ときの調和的な力は女性特有のもの。社会においてもとても大事な資質だと思います。そのためにもまず興味を持ってもらうこと、そしてその先の部分を用意することが大切です(小弥校長)。ここにしかない、ここだからこそできる教育は、伝統女子校の深い経験と未来への確かな視線から生み出され、新しい時代を駆け抜ける、社会を担う女性たちを導いている。



卒業生がそろって実感を口にできる情操教育。礼法、本物の芸術との触れ合い、四季折々の豊かな自然——そして生徒の目標を生み、実現するための多彩な取り組みは、教科教育に留まらず、充実した施設・設備にも反映されている。理念である「女性の社会的自立」への思いはひたむきで、熱い。



共立女子第二中学校高等学校